



米騒動発祥の地 [B-5]

旧十二銀行の米倉

魚津の名を全国に知らしめた「米騒動」の貴重な遺跡です。大正7年、米価高騰に苦しんでいた漁師の主婦ら数十人が、米の積み出しをやめるよう要求し米騒動はここから始まりました。銀行の社屋や倉庫が当時の面影を残しています。



魚津浦の蜃気楼 (御旅屋跡) [B-5]

加賀藩主が蜃気楼を見た場所が国登録記念物(名勝地関係)に登録

寛政9年(1797)、加賀藩主前田治脩(はるなが)が参勤交代で魚津の御旅屋に滞在した際に出現した蜃気楼を描かせた「喜見城之図(きけんじょうのず)」が金沢市立玉川図書館に所蔵されています。蜃気楼の名所として江戸時代の鑑賞記録が今も史料として残るこの場所は、2020年3月に国の登録記念物(名勝地関係)に登録されました。



万灯台 [B-5]

魚津の海の玄関口を明るく照らした万灯台

江戸時代末期、魚津港最初の灯台として暗夜の航路を守るとともに、台中に地藏菩薩を安置して海上安全を祈願していました。当時は陸より海上による運輸が多く、魚津港にも北海道や滋賀、大阪まで往来する船がたくさん出入りしていました。



魚津城跡 [B-5]

上杉の悲劇とよばれた魚津城の戦いの舞台

戦国時代、織田信長が天下統一を目指し、上杉軍との戦いを繰り広げる中、1582年、織田方の総攻撃を受け、のちに「上杉家の悲劇」とも呼ばれる「魚津城の戦い」の舞台となった場所です。



有頼柳 [D-2]

立山開山伝説発祥の地

富山の子は立山に登ってこそ一人前といわれ、同所はその立山を開山した佐伯有頼と父の越中守・有若の館跡です。柳が門前に繁っていたと伝えられ、「有頼柳」の石を持参して立山登拝すると立山権現様が喜ばれると伝えられています。



松倉城跡 [E-10]

激動の戦国時代の舞台となった山城

越中最大規模を誇り、難攻不落の城として知られていた「松倉城」の跡地です。室町から江戸時代にかけては背後の松倉金山で金の採掘が行われ、その経済力で中世には勢力を誇っていた。多くの武将がこの城を巡って戦い、戦国末期まで新川郡の要としての役割を果たしていました。



郷義弘の石碑 [E-10]

越中の刀工

越中国新川郡松倉郷(現魚津市松倉)に住んでいた南北朝時代の刀工。名刀の収集家であった太閤秀吉は、京の吉光、鎌倉の正宗、越中の義弘の作品を珍重し、この三者は後に天下三作と呼ばれました。若くして没したため、「郷とおひげは親たことがない」と言われるほど、日本刀の中で最も入手困難なもの一つとされています。



魚津歴史民俗博物館 [F-4]

魚津の歴史スポット

天神山の中腹にあり、歴史民俗資料館、吉田記念郷土館、旧沢崎家住宅の3つの施設からなります。博物館のある天神山は、天神山城跡という山城で1582年「魚津城の戦い」で魚津城援軍のために越後の上杉景勝が陣を敷いた場所としても有名です。

●魚津市小川寺宇天神山1070 ☎0765(31)7045
¥/入館無料 営/9時~17時(入館16時半まで) 休/毎週月曜日(祝日の場合は翌平日)11月~3月休館



上杉謙信の歌碑とときわの松 [B-5]

「武士の鎧の袖をかたしきて 枕に近き初雁の声」

越後の上杉謙信が越中に進軍した際、初秋の魚津城の地にて鎧を着けたまま万感の思いを込めて口ずさんだものとされています。そばには、謙信ともゆかりのある「ときわの松」が植えられています。